

たこやきリーグ決勝観戦記

第一章 あいさつ

みなさんこんにちは。最高位戦日本プロ麻雀協会 C2 リーグ所属の阿部柗太朗です。

今回、関西若手の登竜門と呼ばれるたこやきリーグの決勝戦の観戦記の執筆を担当します。どうぞよろしく申し上げます。

ここから数行、導入のくだらない話が続きますので

「たこやきリーグの結果が知りたい！」

「お前の話なんてどうでもいい！」

「スマブラの新作がやりたい！」

という方は第五章まで読み飛ばしていただいても結構でございます。

第二章 たこやきリーグとは

そもそも当リーグを存じていない方がこの観戦記を読むパターンは

①麻雀が好きすぎる人

②全国 1 億の阿部ファン

くらいのものだとは思いますが、告知も込みでご説明させていただきます。

関西在住若手プロによる私設リーグ。

Big タイトルを目指し奮闘する若手プロが実力を競い、
雀力向上を目的とするリーグ戦です。

(たこやきリーグ HP より引用 2018 年 3 月 15 日 <https://takoyaki2017.jimdo.com/>)

です。詳しくは上記 HP へ。

第三章 阿部、観戦記書くってよ

さて、文章力に定評があるわけでも、雀力に定評があるわけでも、知名度があるわけでもない私が、

私設リーグの決勝の観戦記を執筆させて頂けるのは、当リーグの発起人である牧野伸彦様より依頼を承ったからであります。

牧野「決勝の観戦記書いて」

普段ととてもとてもお世話になっている先輩の頼み。彼の誕生日にはタバコをワンカートンプレゼントし、

先日の私の誕生日には何のお返しもありますが、ここは二つ返事で快諾しましょう。それが上下関係というものであり、人間関係を良好に保つ秘訣です。

第四章 対局者紹介

それでは決勝戦に勝ち残った4人のメンバーを紹介しましょう。

- ・松本陵(最高位戦日本プロ麻雀協会)



今回唯一の最高位戦からの勝ち残り。リーグ予選で **267pt** を叩きジャンプアップで通過。

好きな歌手は西野カナと AAA ということで、それだけで何となく人となりが見えてきます。

これは完全な偏見ですが清水翔太も好きだと思います。あと湘南乃風。シラケト。

- ・阿部裕馬(日本プロ麻雀協会)



阿部孝則プロ(RMU)、阿部柊太郎(最高位戦)と並んで阿部三銃士の一角を担う協会のホープ。

バランス型の雀風で趣味はカラオケとのことですが、以下の画像を見ていただければわかる通り、

バランスが悪いですし、ゲームしかしてないと思います。これも完全に偏見です。



・鳥井ゆう(日本プロ麻雀協会)



こんかいの、4にんのなかでわ、いちばんゆうめい！＼(^o^)/
たぶん！

かんさいじょりゅーかいの、ぶろぐでわ、たかはしじゅりさん
と、おもしろぶろぐたいけつで、しのぎをけずってる！

すみません、これはリスペクトです。鳥井さんのブログが好きな
のです。紅一点、リーグの華のためにも鳥井さんの活躍に期待で

す。

・原田翔平(日本プロ麻雀協会)



関西協会の若手スター選手。圧倒的な雀力と絶世のスタイルを
兼ね備え、来季からは戦いの場を東京の B2 リーグへ…。

もはや関西では、向かうところもはや敵なしといったころで
しょうか。

これらを踏まえて事前の関係者による優勝予想を見ていきましょう。

2018年3月19日 15時発走				
4	3	2	1	第1回Takoyaki League 決勝戦 全4半荘
原田 翔平	鳥井 ゆう	阿部 裕馬	松本 陵	
協12後期・社	協12後期・社	協15前期・社	最40期・社	期・性
マーチャオ	京標リズム	-	京都Potti	展舎
◎	○			主催TM 牧野
◎	○	△	▲	解説TM 小室
◎	△	▲	○	裏方TM 南
◎		○		実況TM 美勇
	◎		○	配信TM Y
リ高基 ー評礎 ガ価雀 ー力 2	場会配 慣場信 れ対経 一局験 一番多	優青学 勝雀生 旗麻 杯雀	ガ属友 ーし添 りこ厭 り一舎 し一所	備考

既に Twitter 等で目にした方も多いとは思いますが、来季から B リーガーとなる原田や配信経験の多い鳥井に票の集まる偏った予想となりました。阿部、松本の両者の心は熱く煮えたぎっていることでしょう。少なくとも僕なら牧野と小室の藁人形の制作に取りかかるところです。

さて、スマブラがやりたいと読み飛ばした方もここまでです。これより第一回たこやきリーグ決勝 4 半荘の様をお伝えします。

第五章 決勝 1 回戦 ～カオスとコスモスの狭間で～

起親から阿部-松本-原田-鳥井

○東一局 ドラ:7s



親の阿部に東が対子の手牌。2巡目に鳥井から出た東をポンしてここから打西。

ドラのない役牌2種や連風牌が対子の配牌はここに対々和や混一色を複合させて満貫をベースに打つという縛りプレイを強いら

れている僕のような打ち手ならば、

この時点で打4sとして混一色を本線にドラ引きに対応できる形を取るでしょう。

このあたり、阿部がバランス型と自称するところでしょう。



しかし先制の聴牌を入れたのは鳥井。絶好の 2s を引き入れて立直とします。開局に山に 6 枚残りの 3 面張をあがれない人は前世が極悪人くらいなものです。

2 巡後に 7m をツモあがり。裏ドラものせて 2000/4000 の和了。鳥井が幸先の良いスタートです。

ちなみに裏ドラが乗る確率は、通常の平和手では 33%程度とされていますが、電車で席を譲るなり、道で困っているお年寄りに寄り添うなりして徳を積むことで 33%程度になります。

○東2局 ドラ:9m,



親の松本が 7p をポンして打 5p この時点で河に 3 色の中張牌が切られ、少なくとも通常手の進行には見えにくいでしょうか。実際は混一色なのですが、対々和などの印象を受けるでしょうか。





これを受けた原田はここから打 2m を選択。役牌 3 種とドラが浮いたこの手牌で、松本の仕掛けを見て七対子で受け返す構想でしょう。

こういった局面で配信を通して神視点で全員の手牌を確認していると、当然のように思えてしまうのですが、

自分が座りながら全員の手が伏せられた状態でこういった選択を取るのは実は難しいのです。原田が下馬評の高さをしっかりと見せてくれました。

その後、松本が阿部から 8p をポンして聴牌を入れますが全員ベタオリして流局。松本の一人聴牌で連荘となりました。

○東 2 局一本場 ドラ:6p



原田が中をポンしてこの手牌。阿部ならば打北としそうですが、原田は打 9p を選択。現状、混一色を付けても打点は 3900 ですが、

巡目が速いことと、以降持ってきた役牌の重なり次第では満貫も狙えるという構想でしょうか。

こういった高打点の手組が原田の特徴です。



上手くいきました。あの手が 7 巡目に満貫の一向聴です。しかし先制の立直を入れたのは阿部。

同じく勝負手の松本が振り込み阿部が 2600 の和了となりました。

○東 3 局 1 本場 ドラ:中



先制の聴牌を入れたのは阿部。ドラの中を切ってダマを選択。これを鳴かれなかったら次巡ツモ切り立直、鳴かれたらダマテンのまま続行とする構えでしょうか。



これに反応したのは親の原田。ポンして147sの12000聴牌。
阿部としては中を切りダマを選択したことが功を奏した形です。



しかし難しいのはここからの押し引きです。6巡目に6mを切っている原田が3sのツモ切りを挟んで打6m(上図河右)。

離れ対子落としのパターンとして考えられるのが

- ①一つ離れた対子を持っている
- ②ターツ選択から次巡引いてきた牌との安全度で残っていた
- ③強浮き牌として浮かせうち
- ④リャンカン
- ⑤並び対子

といったところでしょうか。

①は4466や6688になりますが、3mと8mを切っていることから除外。

②は単純対子から情報を見せないためにあえて離れたケースもありますが、ドラドラの手牌で直線的に打っていることを前提として、前巡に切った3sと6mの比較。

北家の松本が3sを切っていることと、6mが2筋にかかる全件無筋であることから除外。

③は好形変化や打点の種としてのこしていたケース。打点はドラドラで確保されているため、孤立牌としての好形の優劣ならフリテンの受けにならない3sが

残りそうなので除外。

④は 2466 の形。3m を切っているので除外。

となると可能性が最も濃厚なのは⑤の 5566 の形から打 6m として、中をポンして打 5m としたケースではないでしょうか。

では 556 から中をポンして打 6 とするのはどのような形でしょうか。

現実的に考えられるのは

①完全一向聴からの聴牌

②55m22378p などの 47m より良い両面の残る完全一向聴

くらいでしょう。つまり現時点で原田は確実に完全一向聴以上なのです。

しかし裏を返せば確実に聴牌とも言い切れないのです。仮に聴牌していたとして、中ポンした時点での無筋は 14s25s47s とピンズ全部の合計 9 本。

それらを踏まえて阿部は 7 巡目に 7p をプッシュします。さらに 10 巡目に持ってきた 7s で少考します。

ここが阿部の中の損益分岐点だったのでしょうか。「最後の 1 枚やで」とプッシュし、これが親満警察に御用。

原田が 12000 点の和了。阿部の待ちの 69p が親の現物ではないだけに、和了率も高くはなく押し引きのバランスとしてはかなり難しい場面でした。

○東 3 局 2 本場 ドラ:4p

今局は壮絶なリーチ合戦となりました。





先制したのは阿部。タンヤオドラ 1 の 25s シャンポンで立直。



続いて追いついたのは鳥井。7m を暗槓して新ドラの 1p がもろ乗りして聴牌。

三暗刻ドラ 3 で両面に受ける形もありますが、少考してツモり四暗刻の形で立直。

優勝効率と配信効率でしょうか。鳥井らしい選択です。



そこに殴り込みを掛けたのが松本。タンヤオ平和ドラ1のこちらも勝負手で36m待ちの立直。
松本の立直発声を聞いた鳥井の表情がこちらです。

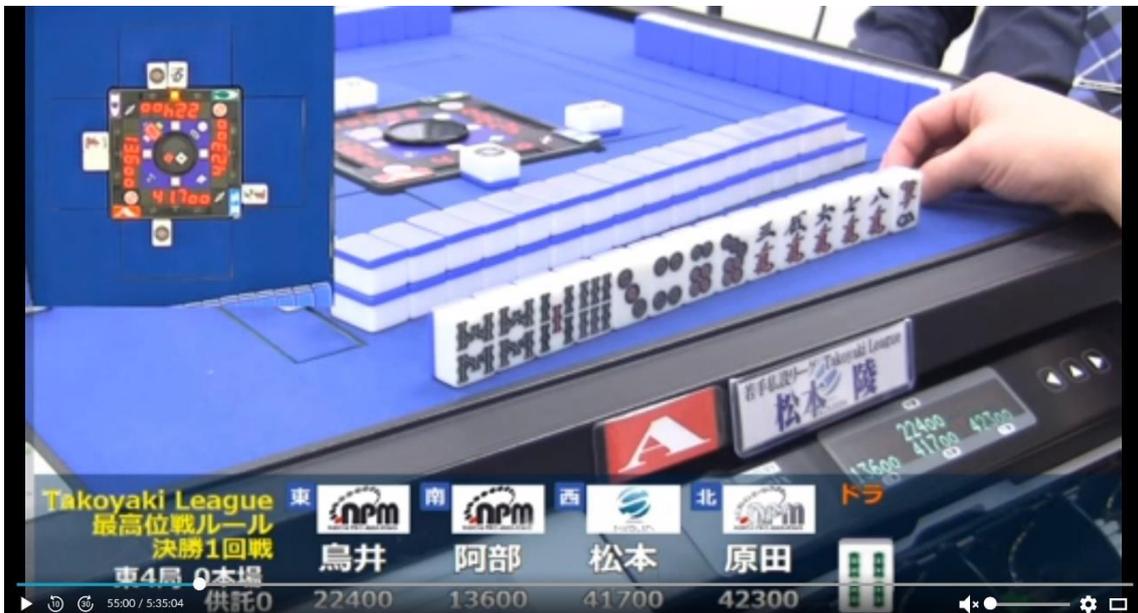


「聞いてないんだけど！」と言いたげな表情がいいですね。雀サクツのスイッチャーの方も鳥井の表情を抜いていたのはファインプレーでした。
こうなるともはや結果は見るまでもないです。鳥井が一発で掴んだのは松本の当たり牌の6m。裏ドラも乗って松本が12000は12600の和了。

○東4局 ドラ:4s



態勢はなおも松本に優勢です。この配牌、4mあたりが引ければ優勝ですね。





引きました。優勝です。もう迷うことはありません。次巡流れるように 7s を引いて立直。
5p をツモり裏ドラも乗せて 2000/4000 の和了。

○南1局 ドラ:5s



南入したところで、親満警察に拘留されている阿部被告に親でドラドラの逆転無罪の手牌。

被告は 9s をツモ切り 4p を残してタンピン移行を目指します。



しかし先制したのは原田。258p 待ちで立直。



阿部被告は 4p 残しがビタっとハマり原田の当たり牌の 5p を吸収する形で全面戦争体制です。
ここに高めの 6m を引きいれて立直。原田の一発目のツモは 3p。
「御無礼、18000。」阿部、勝訴です。



○南2局ドラ:4m



鳥井がドラ暗刻の手牌で原田から出た場に2枚目の2mを両面でチー。鳥井は決して副露率がではないので、他家に緊張感が走ります。



先制立直は阿部。4枚目のドラを引き入れてカン7sで立直。



同巡に原田も追いついて69sで立直。





2件立直を受けた後、鳥井もカン4pのタンヤオドラ3聴牌。
しかしこの戦を制したのは原田。立直平和で2000点の和了。
文字通り平和に終わりました。

○南3局ドラ:7p



この局で先制したのは鳥井。ダマでも8000の聴牌が入るが、
ノータイムで立直として勝負に出ます。



親の原田も七対子の 8p 単騎で聴牌して立直。
 この部分だけを切り取ると、なぜ 8p なのかと疑問に思う方もいるかと思えます。
 実はこの局は、原田のセンスが存分に発揮された局なのです。





8p を残したのは 8 巡目。

2 巡前に 2s が鳥井と阿部から切られた時点で狙いをチートイに絞った原田はここで打 3p を選択。

この時点でドラ上の 8p がなんと 2 枚残りなのです。さすがの山読みです。

リーチ時点では残り 1 枚となりましたが...



鳥井とのリーチ合戦を制してツモりました。原田のセンスが光る見事な 3200 オールとなりました。

○南3局2本場ドラ:2p



ラス目の鳥井から立直を受けた1発目の親の原田の手牌。
發を鳴いて69s待ちの1500聴牌を入れていたところに無筋の8pを持ってきます。
現状1着の松本との点差は13100点差です。
対して、3着の阿部とは8000点差で4着の鳥井とは19300点

差。

仮にここで鳥井に対して満貫を放縦すると、2着順落ちの可能性と8900点の素点で合計して48.9ptを失う計算となります。

オーラスでまくることもあるので確定の収支ではないのですが、リスクに対してあがりのリターンが見込みにくい場面です。

鳥井の河は通っている筋の本数が少なく、8p自体の放縦率はさほど高くないように思えますが、1発目ということもあり放縦打点は決して安くはなさそうです。

原田は長考の末打8sとし、8pにくっつけての復活を見る選択を取りました。



そうして迂回しながら残りツモ番一回で再び聴牌。

先ほどと同じ 8p を切ると高確率で聴牌のままもう一度親番を出来そうです。

しかし先ほどよりも鳥井に対しての無筋は減っており、8p の放縦率は高くなっています。

しかし一発がなくなったことと、自分の収入がほぼ確定することから、同じく長考の末に 8p を押す選択を取りました。

非常に面白い選択です。先ほどは現物待ちの両面で聴牌していて、通っている筋が少ないにも関わらず降りたのに対して、

放縦率が高まった今になって先ほど降りた牌を押すという選択です。

これだけ頑張ったのにも関わらず...



最後のツモ番で再び無筋の 6p を引いてきました。
ここで原田は降りを選択。原田の押し引きの微妙なバランスが見えた一局でした。
鳥井の一人聴牌で流局。

○南 4 局 4 本場ドラ:2s



前局、親番で早い立直をかけ原田から 3900 を和了し連荘に成功した鳥井。

「まだまだ稼ぐぜ！」と今局も立直をかけるも...



宣言牌のドラがダマの松本にストライク。

松本がタンヤオドラ 3 で 8000 の和了。

高打点の応酬で混沌とした 1 回戦を制したのは松本でした。

1 回戦終了時点でのポイントは

松本 +54.1

原田 +8.0

阿部 ▲15.2

鳥井 ▲46.9

となりました。続けて 2 回戦の模様をお伝えします。

第六章 決勝二回戦 ～好調男～

起家から松本-阿部-鳥井-原田

○東1局 ドラ:3m

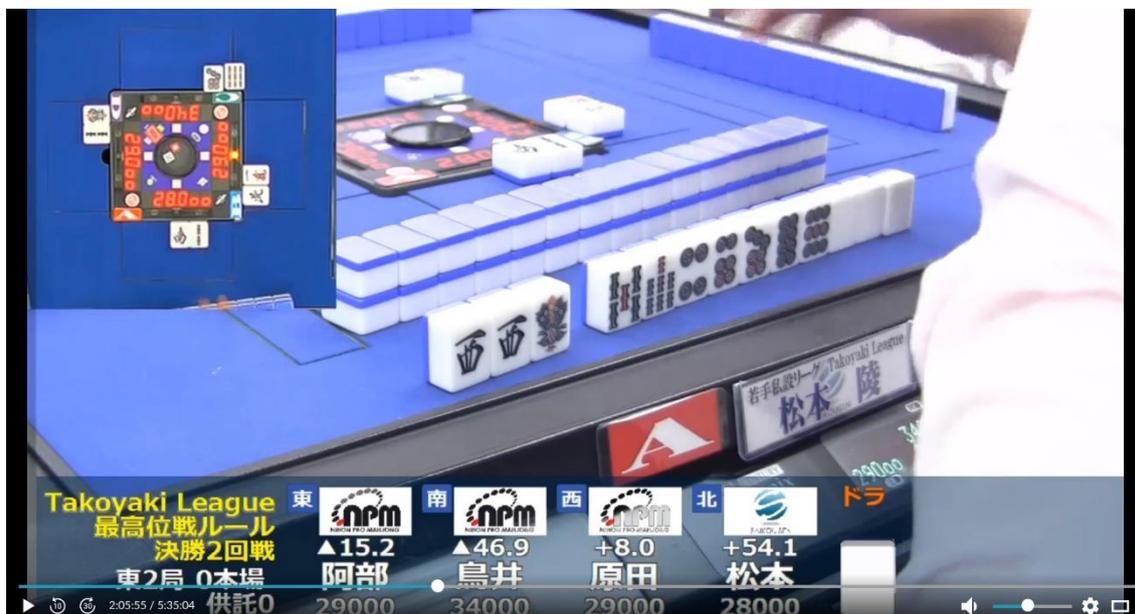


2回戦も先手を取ったのは鳥井。
一盃口の高めをツモり 1000/2000 の和了。
反撃の狼煙を上げます。

○東2局 ドラ:白



先制したのは原田。3巡目に東と7mのシャンポンで当然の立直。

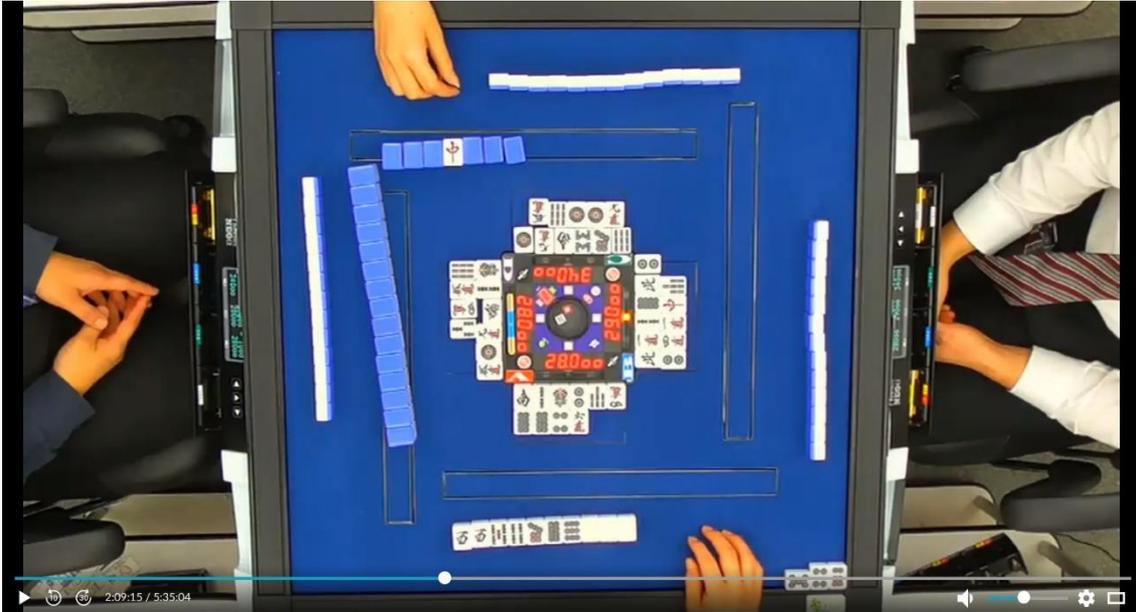




待ったをかけたのは好調男の松本です。

ドラの白が暗刻の手牌から、原田の立直宣言牌の 5p をチーしてカン 6s 待ちの聴牌でまたしても全面戦争勃発です。

4s を引いて 36s に手変わりした後、原田が持ってきたのが...



3s ですね(上図左)。松本が原田から 8000 の和了。

○東 3 局 ドラ:5m





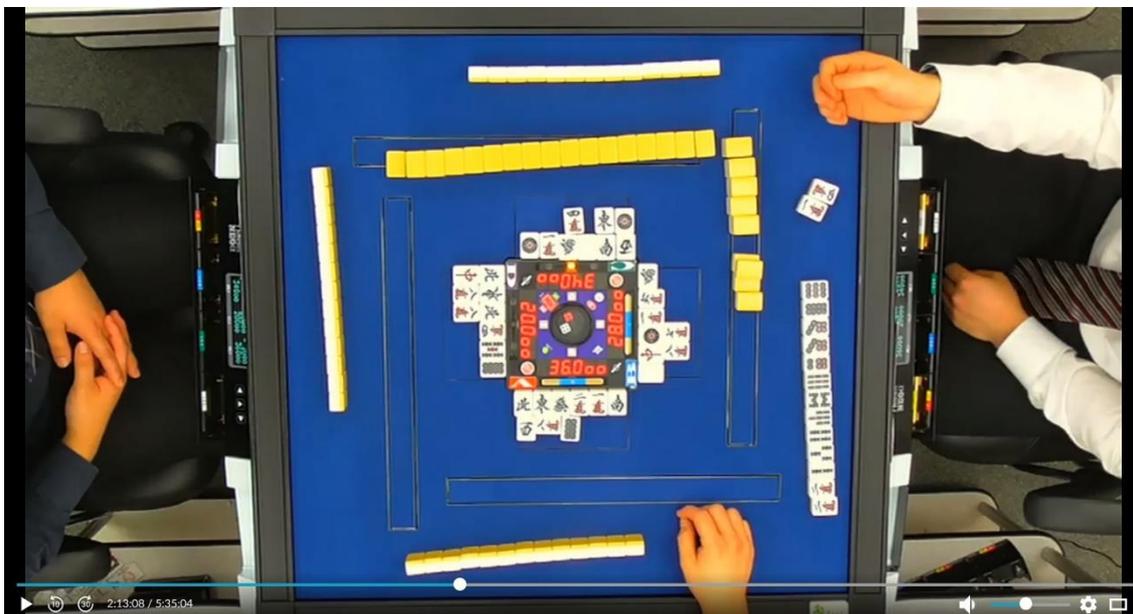
先制したのは阿部。カン 8s を引き入れ平和の 58p 待ちで立直。
久しぶりの登場ですね。
しかしこの流れなら忍び寄るあの男の気配....



「どうも皆さんお待たせしました。」
「今局も今局とて松本でございます。」
「平和ドラ1でございます。立直です。」
「一発ツモかな」
などと思っていたであろう松本の一発目のツモは



なんと阿部の和了牌の 8p。阿部も胸をなでおろしたことでしょう。しかしこれだけでは終わりませんでした。



ん？



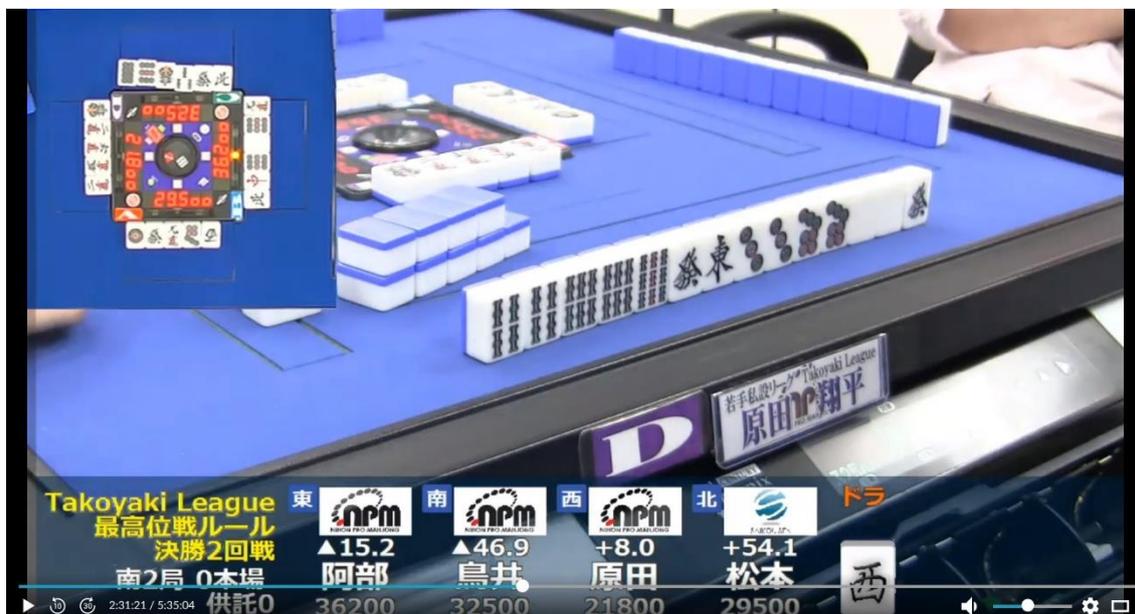
「おっと失礼。裏裏で 8000 だ」
阿部は日頃からお年寄りに親切にした成果が発揮されました。
1 回戦トップの松本の快走を止める阿部の和了に全員歓喜です。

○南1局 ドラ:西



七対子戦士の原田はここから打5mを選択。

0面子1両面ということでかなり七対子による場面だと思います。





まあ戦士なのですぐに聴牌します。東単騎で立直。
しかし道中で 56m と両面ターツを落としたことで他家の不信感を買ってしまい、1人聴牌で流局。

○南3局 ドラ:5m



今局もフォーカスは原田の手牌。ラス目で迎えた南3局。
原田は恐らく 1p を切るだろうという解説と僕の予想と同じく
打 1p を選択。

6m を引いたことでドラの受け入れを残しながら 1p の対子を
手に組み込むことが難しい形となってしまいました。

ここは巡目が速いこともあり、大きく狙う原田らしい一打です。



この手を上手くまとめ上げた原田はタンヤオの47s待ちで立直とします。





しかし闇夜に潜む 9p 単騎の七対子ドラドラの聴牌を一巡前に入れていた鳥井。

チャンタ系の仕掛けをしている阿部に対して打ちにくい 9p での仮聴でしたが、原田の宣言牌が 6p で絶好の待ちに変化。

自分で持ってきた 6p もツモ切り、ダマ続行とします。



ここに飛び込んだのが阿部。

123p789s と仕掛けジュンチャンのカン 2m で聴牌を入れていましたが、降りた 9p が鳥井にストライク。

鳥井にとってはトップ目からの大きな 9600 直撃となり単独のトップ目に浮上しました。

○南 3 局 2 本場ドラ:7m



松本がドラのペン 7m 待ちで立直をし、ツモって 1000/2000 は 1200/2200 の和了でオーラスへ。

○南4局 ドラ:5m



阿部が七対子の1p単騎で立直。

後がない親の原田から打ち取り 3200 の和了で 3 着を死守。

2 回戦終了です。

2 回戦終了時点でのポイントは

松本 +68.2

鳥井 ▲5.7

阿部 ▲23.9

原田 ▲33.6

となり、松本が一人ポイントで頭 2 つ抜け出しました。

鳥井 阿部 原田の 3 者は松本の着順を意識しながら残りの 2 戦を戦うことになりそうです。

続けて 3 回戦の様様をお伝えします。

第七章 決勝三回戦 ～ドラを制するモノ～

起家から原田-松本-阿部-鳥井

○東1局 ドラ:7m



親の原田に対子系の配牌。

七対子一向聴ですが、打7pとして同巡に松本から切られた中
をポンして対々和へ向かいます。



さらに次巡、すぐに 5s を暗刻にして出上がり 7700、ツモれば三暗刻もついて 4000 オールのあがりとなる聴牌を入れます。





さらにもってきた 5s を暗槓。原田の河もいよいよ濃くなってきているので、各者が対応しながらの手作りを強いられる中、新ドラの 8p が乗ったのが...



「どーもっす」
「俺っす。松本っす。」
「リーチっす」
「え？この巡目で 14m が 4 枚残ってるんすか？」



「当然一発っす」
「あ、裏裏っす」
「4000/8000 っす」

厳しい展開となりました。仮にこの3回戦で松本がトップを取ると...

松本 +100

鳥井 ▲15

阿部 ▲40

原田 ▲45

概算ですが、全員と100pt以上の差がつくことになります。

そうなる最終戦で

鳥井はトップラス 55,000 点差条件

阿部はトップラス 80,000 点差条件

原田はトップラス 85,000 点差条件となってしまうので3者はなんとしても松本の着順を落とさなければなりません。

○東2局 ドラ:8s

親はさきほど倍満を和了した松本です。ここで松本に稼がせてはなりません。絶対に。絶対にです。



稼がせてはいけない言うてるやろがああああ！

高めをツモれば6000オールからスタートする立直が3巡目に入りました。

そしてなんと、1pが4枚残り4pが3枚残りという絶望的な状況です。

完全に終わりを予感しました。





女神降臨！女帝見参！ヴィーナス参戦！鳥井が浮いていた 1p を重ねて 1m1p のシャンポンで追っかけ立直！
手詰りの原田から 1m をロン！立直ドラ 1 の 2600 の和了で首の皮一枚繋がりました。

○東 3 局 ドラ:8s

暴君松本が静まったことにより、残り 3 者による骨肉の争いが始まります。



先制は鳥井。カン 5p 待ちの立直ドラ 1.





次巡、追いついたのは原田です。8pを暗槓して6sと2pのツモり三暗刻の形で立直。



さらに参戦したのは親の阿部です。お待たせしましたと言わんばかりに3sを暗槓して...





当然の立直です。
さあこれを制する者が松本への挑戦権を手に入れる！
勝者は...





阿部だああ！裏も乗って 4000 オールのツモあがり。
これで阿部と松本の点棒はほぼ並びに。

○東 3局 1本場 ドラ:2p



先制したのは原田。立直 發の 69p 待ちで立直。





暴君松本の手牌がこちら。戦闘態勢ですが、47p が埋まると原田の当たり牌の 6p が打ち出される形。しかし...



今日の原田が持ってきたのは 2p でした。松本はこれをポンして打 5p として 47m 待ちの聴牌。



あっさりツモあがり。2000/4000は2100/4100の和了で再び2着目の阿部を突き放します。

○南4局 ドラ:發

松本の点棒が大きく変動することなく迎えたオーラス。





トップの阿部をまくるために跳満ツモ跳満出上がり条件の阿部が、条件を満たす僥倖の發を引き入れ立直。



親の鳥井は連荘を目指して、發を打たずに形式聴牌を入れようと粘りますが...



終盤でどうしても使い切れなくなり放縦。



阿部としても裏が1枚乗れば逆転なので当然の倒牌ですが、裏は乗らず8000の和了で3回戦終了です。

3回戦終了時点でのポイントは

松本 +113.6

阿部 ▲7.3

鳥井 ▲25.2

原田 ▲81.1

となりました。

松本に最も近い阿部でもトップラス 60,900 点差条件と現実的にはかなり厳しい状況となってしまいました。

第八章 決勝最終戦 ～当然～

ウイニングランという言葉があります。

光 GENJI が 1991 年に発売した 14 枚目のシングルです。

なんて、こんなコアすぎるネタ伝わるんですか。

競馬やモータースポーツなどにおいて勝利したものが、場内をそのまま一周することを指すものですね。

このポイント差、もちろん親で役満と跳満を松本から直撃すれば逆転は可能です。

また、麻雀というゲームの性質上、最後の親番が落ちるまでは優勝の可能性がゼロになることは決してないのです。

しかし、松本にとってこの半荘はいわば「ウイニングラン」

一局、そしてまた一局と進むたびに自分の優勝が足音を立てて近づいてくる、そんな感覚でしょう。



最終戦オーラスの松本の親番。

松本は残り 17 回、安全に牌を前に切るだけで優勝することができます。

これは決して松本に運があったからだけではありません。

松本は最終戦をこうして迎えられるように常にリスクを前倒ししたからなのです。



倍満をあげた3回戦目の東一局。
親の仕掛けに対して当たるかもしれない4sを押します。当然です。ドラ3の一向聴ですから。
この直前に場1の東も切ります。当然です。親は松本が前回の東を切ってからずっとツモ切りですから。





3回戦の東3局、原田の先制立直(上凶河右)を受けた松本は立直の一発目に引いた裏スジの9sを切って勝負の選択を取ります。当然です。こんな手牌で降りることはありません。鉄壁保でも全ツッパするでしょう。

しかし、この当然の打牌を当然に行うことがこの決勝で、このポイントを持つとできなくなることもあると思います。

結果的にこの局に満貫をあがり切ったことが松本の優勝を決定づけたといっているでしょう。

振り返れば、松本の打牌は特別なものは少なかったように思います。

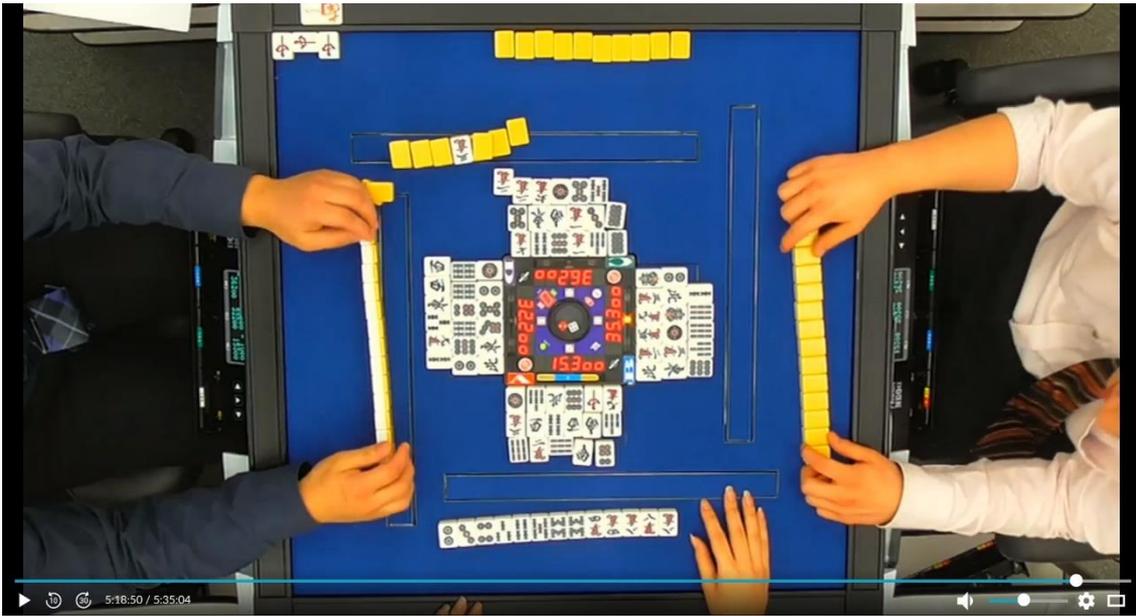
「もらった手牌に対して当然の手組をし、当然の押し引きをする。」

その当然を続けた結果、松本はこの最終戦をウイニングランとすることが出来たのではないのでしょうか。



最終局、松本は最後の1枚を慎重に選び...





牌を伏せて優勝です。(上図右)

最終戦を終えたトータルスコアを確認しましょう。

- 1位 松本 +127.9
- 2位 阿部 +27.9
- 3位 鳥井 ▲66.9
- 4位 原田 ▲89.9

なにわのデリシャスボール改め初代たこやき王は松本陵選手です！

おめでとうございます！

第九章 終わりに

ながらくのお付き合いありがとうございました。

今回の観戦記には真面目な麻雀の話からクソみたいなボケまで実に様々な要素を組み込みました。

僕はこうして、麻雀に関する文章を書くときに面識のない方に対しても際どいボケを書いているのですが、

僕への信頼感と引き換えに皆さんの笑顔が買えるのであれば安いものです。

クスリともしないのであれば、僕の社会的地位が直角急降下するだけなので、誰かコッソリ教えてください。

さて、たこやきリーグは今年度にも第2回も開催予定です。

また決勝が終わるころに皆さんに情報と笑顔をお届けできることを....

協賛:マーチャオグループ/株式会社鳳凰

後援:阿部柊太郎 @abe_saikouisen

<了>